

創刊にあたって

遠藤英也

早いもので、我々の生体防御医学研究所が発足してから、既に4年半が経過した。この間、業績集を作ろうという考えは当初から我々の頭のなかにあったが、当時は新設の遺伝学部門や感染防御学部門の教授が未だ決まっていない状態だったので、多少おくれても全部門が揃った段階で出そうということになった。その後、笹月教授が昭和59年11月に、渡辺教授が昭和60年4月に夫々着任され、全てが揃ったので、先ずは発足以来昭和61年3月までを第1巻としてまとめようということで作業がすすめられ、ここに漸くその実現を見た次第である。誠に喜びに堪えない。

さて、我々の研究所の目的が、生命に関する普遍的な原理の探求と、生命現象の総合的理解を通じて、疾病の診断、治療、予防に役立たせることにあることは、いうまでもない。加えて、近年バイオサイエンスの登場により、生命現象の解析の手段として新たに、ユニークな操作的実験法が確立され、生物諸科学に強力なインパクトを与えていることは周知の事実であるが、我々の研究領域も例外ではない。従って、当研究所で今後、どのような研究が推進されるにしても、バイオサイエンスの技術の恩恵に浴することは想像に難くない。しかし重要なことは、この技術を使って、何をどのように料理するかであって、そこに研究者自身の深い洞察力と創造性を必要とすることは昔も今も変わりはない。

当研究所は、21世紀に向けて九州大学が生命科学のメッカをつくるべく、大きな期待をもって発足せしめた研究所であるので今後優れた業績がどしどしと相次いで我々の業績集をうずめつくすことを創刊にあたって心から期待したい。

初代所長（生化学部門教授）